

新催眠薬「ウエロナール」Veronal.
及ビ「イゾプラール」Isopral. ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38511

因云 東京醫科大學木下博士ニハ尙優病調査トシテ富山縣出張ノ際當地ヲ過ギリ自己トシテハ未タ左ノミ大ナルモノヲ見スト雖濱田博士在職中頗ル巨大ナル纖維腫ヲ實驗セラレタルコトアリ多分全博士ヨリ回答セラレタルナラン云云、是レ小川教授ノ傳ヘラル、所ニシテ其濱田博士ノ實驗ニ係ルモノハ卵巢ヨリ發生シタル八貫目以上ノモノナリト云フ、尙山田謙治氏所報ノ體重ノ半以上ニ及ビタルモノニ就テハ岡田剛吉氏能ク之ヲ記憶セズト答ヘラレタリ

○新催眠藥「ウエロナール」Veronal.

及ビ「イゾプラー」Isopral. ニ就テ

福岡醫科大學藥物學教室

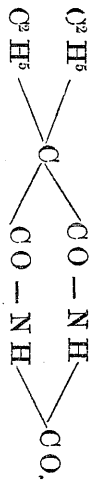
助手 溝口龍三

西歷千八百二十八年ウエーレル氏ガ尿素ナル有機化合物ヲ無機物質ヨリ製出シ以テ之ヲ世ニ公ニセラレタル以來化學ノ進歩ト共ニ種々ナル有機化合物ヲ人工的ニ製出シ得ルニ至レリ之レ Syntetische Chemie. ノ賜ナリ而シテ此ノ化學ノ進歩ヤ引テ影響ヲ我ガ藥物學界ニ及ボシ年々歳々人工的ニ新藥ヲ製出セラル、蓋シ枚舉スルニ違アラズ然リ而シテ吾人ハ新藥ニ對シテハ多大ノ注意ヲ拂フ價値アルヲ信ズ如何ントナレバ藥劑的療法ノ進歩上大ナル關係ヲ有スルガ故ナリ見ヨ彼ノ「抱水クロラール」ノ如キハ危險ナル心臟麻痺ノ作用ヲ逞クスルガ故ニ此ノ危險ヲ防ガントシテ「ウレターン」ナルモノ現ハレタリ然ルニ惜ムラクバ其奏効確實ヲ欲ク茲ニ於テカ「ズルフオナール」アリ然レドモ此ノ新藥モ已ニ知ル如ク腎臟ヲ刺戟シテ中毒性ノ腎臟炎ニ因スル血尿ヲ漏ラスヲ見ル豈ニ危險ナシト云フベケ

ン哉其外「トリヲナル」或ハ「パラアルデヒード」ノ如キモ各々飲点ヲ有シ又以テ理想的催眠藥タルコトヲ得ズ
 獨リ千八百九十九年現ハレタル「ヘドナル」ニ至テハ蓋シ理想ニ近カキ催眠藥ナラン斯ノ如ク研究シテ倦マザレ
 バ遂ニ理想的ノ良催眠藥ヲ得ルニ至ル之レアナガチ木ニ據テ魚ヲ求ムルノ類ニアラザルヲ信ズ而シテ此ノ一事タル
 吾人が新藥ノ發現ヲ祝スルト同時ニ大ニ注意ヲ拂フ價値アリト絶叫スル所以ナリ然ルニ近來又「ウエロナール」及
 ビ「イゾプラール」ナル新催眠藥世ニ公ニセラル、ヲ見ル果シテ有効無害ナル良藥ナル乎之レ余ガ淺學ヲ願ミルノ
 邊ナク此處ニ兩者ヲ取テ其催眠ニ對スル作用ヲ驗セントスル所ナリ

第一章 「ウエロナール」

「ウエロナール」ハ西歷千九百〇三年エー、ウイッシエル氏及ビヨット、ウイ、メーリングノ両氏ニヨリ世ニ公ニセ
 ラレタル新催眠藥ニシテ催眠又ハ鎮痛劑トシテ効ヲ奏スルモノナリ「ウエロナール」ハ之ヲ化學的ニ云ヘバ「ヂ、
 エチール、マロニール、ハルンストップ」ニシテ次ノ化學記號ヲナス



即チ「ウエロナール」ハ「ヂ、エチール、マロン」酸及ビ尿素ノ集合ニ由テ製出セラレタルモノナリ

「ウエロナール」ハ其性狀白色結晶性ノ粉末ニシテ攝氏二十度ノ水ニハ百四十五分ニ沸騰水ニハ十二分ニ溶解シ冷却
 スレバ針狀又ハ柱狀ノ結晶ヲ拆出シ殆ンド無臭ニシテ其味ハ僅ニ苦ク反應中性熔融点ハ百九十一度ナリ「ウエロナ
 ール」ハ依的兒、「アツエトン」、「醋酸エーテル」温亞爾箇保兒ニハ容易ニ溶解シ冷亞爾箇保兒、呵羅仿謨、「テトラ、
 コロラール、コーレンストップ」、「水醋」、「リグロイン」、「ベンチン」、「亞密爾亞箇保兒等ニハ難溶ニシテ尙ホ難溶ナルハ

「乾燥石油エーテル」及ヒ温亞尼林ニシテ可ナリ難溶性ナルハ「温ベンツォール」ナリ又冷炭酸那篤留膜及ヒ苛性加里溶液中ニハ分解スルコトナク溶解シ夫レニ於テ鹽ヲ構成スルコトナシ

「ウエロナール」ハ尿中ニモ變化スルコトナク排泄セラルト云フドクトル、クライスト氏ハ次ノ方法ヲ以テ定量的ニ定メタリ

即チ可檢尿ニ鉛醋ヲ加ヘ沈降ヲ完結セシメテ之ヲ濾別シ濾液中ニ硫化水素ヲ通ジテ過剩ノ鉛分ヲ硫化鉛トシテ沈降セシメ濾過シ濾液中ニ飽和スル硫化水素ハ空氣ヲ通シテ之ヲ除去ス爾後之ヲ二倍量ノ水ニテ稀薄シ加熱シ動物炭ヲ加ヘ徐々ニ攪拌シテ後チ濾過シ濾紙上ノ物質ハ熱湯ニテ洗滌シテ濾液ト合ス此ノ液ハ少量ニ至ル迄デ水浴上ニ蒸散ス冷却後食鹽ヲ飽和シ三回依的兒ヲ以テ振盪シ此處ニ得タル依的兒分ハ蒸散シ又必要ノ場合ニハ依的兒蒸散ノ完全ヲ遂ゲンタメ精製シタル醋酸ヲ加ヘ真空乾燥器中ニテ乾燥スベシ

「ウエロナール」ニ關シドクトル、ハー、クライスト氏ノ報告スル所ヲ見ルニ蛙ニ「ウエロナール」ヲ與フルトキハ第一ニ腦次デ脊髓麻痺ス而シテ蛙ニ於ケル致死量ハ躰重一、〇基瓦ニ對シテ一、〇瓦ナリト云フ温血動物ニ於テモ同様ナリ温血動物ニ「ウエロナール」ノ効果ヲ迅速ニ且ツ強烈ニ得ント欲スルトキハ總テ溶液ノ状態トシテ用ユベシ然レドモ「ウエロナール」ハ其儘ニテ用ユルモ腸内ノ亞爾加里性液ノタメ直ニ溶解セラレ而シテ吸收セララル然レドモ此ノ効果ハ彼ノ溶液ノ状態ニ於ケルヨリ弱シ、「ウエロナール」ヲ溶液トシ直接ニ血管ニ入ル、トキハ既ニ四十分間ヲ經過スレバ之ヲ尿中ニ鑑識スルヲ得斯ノ如ク迅速ナル排泄ニ拘ラス一度之ヲ躰内ニ與フルトキハ其全量ノ排泄ガ盡キル迄ハ二乃至三日ヲ要ス故ニ「ウエロナール」ハ比較的其効果ガ永ク繼續スルコト明瞭ナリ「ウエロナール」ハ之ヲ少量ニ用ユルトキハ比較的無害ノ睡眠ヲナスト雖ドモ大量ヲ用ユルトキハ中毒症狀ヲ現ハス醒覺後ハ強キ不愉快

快ヲ感ジ又時々トシテ尿中ニ痕跡ノ蛋白ヲ拆出スルヲ見ルコトアリ腎臟ニ關シテハ腎臟ノ血管ハ「ウエロナール」ノ
 タメ擴張セラレ嫩衝或ハ變性ノ傾キアリ此ノ試驗ニ由テ「ウエロナール」ハ少量ニ於テハ快捷ニ効果ヲ現ハシ且ツ
 比較的易キ溶解性ト吸収性ニ由テ善良ナル催眠藥ナルコトヲ承認セラル只ダ大量ヲ用ユルトキハ危險ヲ招ク又「ウ
 エロナール」ハ下熱劑等トシテハ用ユベカラズ如何ントナレバ下熱ノ目的ニハ餘リ少量ニシテ而シテ大量ヲ用ント
 スルトキハ以上ノ危險ヲ來ス恐レアレバナリ「ウエロナール」ヲ用ヒタル後チ利尿頻繁ナルコトハ決シテ意トスル
 ニ足ラズ但シ急性又ハ慢性ノ腎臟炎ヲ有スルモノニハ禁忌スベキモノトス

以上ノ報告ニヨレバ先ヅ少量ニテハ無害ナルガ如ク殊ニ血行器及ヒ呼吸器ニ變狀ヲ認メザルハ吾人ノ最モ歡迎スル
 所ナリ果シテ然ル乎余ノ實驗ヲ見ヨ、

余ノ實驗

第一節 冷血動物就中蛙ニ對スル作用

(イ) 一般作用

中等大ノ蛙ヲ取リ「ウエロナール」ノ一、〇「プロセント」溶液(微温水ニ溶解シテ)ヲ作り其ノ一筒(プラワツ
 氏注射器)ヲ皮下ニ注射スルニ注射後凡ソ一時間ニシテ呼吸並ビニ心搏共ニ靜止即チ生ヲ終ル但シ注射後三乃至五
 分間ニシテ口ヲ開キ漸次腹部ヲ地上ニ付ケ時々不安靜ノ狀態ヲ示シ反射運動興奮セシ感アリ又夕胃ノ内容ヲ吐出セ
 シコトアリ然シテ麻痺狀ニ陥ルハ注射後凡ソ三十分間ナリ致死量ハ躰重一、〇基瓦ニ對シテ〇、九瓦ナリ今之ニ對
 スル二三ノ實驗例ヲ掲グレバ次ノ如シ

實驗例 (其一)

今「ウエロナール」一、〇「プロセント」溶液(微温水ニテ)ヲ作り躰重三十九瓦ノ蛙ニプラワツ氏注射器ヲ以テ其ノ皮部ニ注射スルニ左ノ成績ヲ得タリ

午前十時二十七分 「ウエロナール」如上ノ液三筒ヲ皮下ニ注射ス

全 三十分 安靜ニシテ口ヲ開ク

全 四十分 腹部ヲ地上ニ付ケ時々不安ノ状態ヲ現ハス

全 四十五分 背位ヲ取ラシムルニ常位ニ復スルノ勇ナシ

全 五十分 麻痺状態ニ陥ル指頭ヲ以テ足部ヲ刺壓スルニ反射機能存在シ其他變狀ナシ

全 十一時三十分 呼吸靜止、心臟ヲ露出スルニ同ジク靜止スルヲ見ル即チ全ク死セリ

實驗例 (其二)

蛙ノ躰重二十八瓦

午後二時〇八分 「ウエロナール」如上ノ溶液三筒ヲ皮下ニ注射ス

全 十分 靜穩ニシテ漸次腹部ヲ地上ニ附ク

全 十四分 稍々不安ノ状態ヲ示シテ口ヲ開キ胃ノ内容ヲ吐出セリ

全 二十五分 背位ヲ取ラシムルモ常位ニ復スルノ勇ヲ失ス

全 四十分 全ク麻痺状態ニ陥リ他ニ變狀ナシ足部ニ刺壓ヲ加フルニ反射機能存在セリ

全 三時〇二分 呼吸靜止、心臟ヲ露出スルニ同ジク靜止スルヲ見ル即チ全ク死セリ而シテ坐骨神經ヲ

露出シ電氣ヲ以テ刺戟スルニ興奮性ヲ有ス

(ロ) 反射試驗

今「ウエロナール」ノ反射機能ニ對スル作用ヲ試驗スルニ次ノ如シ
 先ヅ試蛙ヲ取り可及的出血セザル様注意シテ腦ヲ切除シ術後二十四時間ヲ經過シ尙ホ生活機能ヲ有スルモノヲ取り
 以テ試驗ニ供ス而シテ刺戟劑トシテハ一、〇「プロミルレー」ノ稀硫酸ヲ以テセリ其ノ實驗例次ノ如シ

蛙ノ躰重二十五瓦

時分	反射運動ニ要スル時間	備考
午前十一時十五分	十三秒 左後肢	
	四秒 右後肢	
	五秒 左後肢	
	五秒 左後肢	
	十秒 右後肢	
	八秒 左後肢	
	九秒 右後肢	
	三秒 左後肢	
	四秒 左後肢	
	六秒 右後肢	
	四秒 左後肢	
全 三十分		十一時十八分「ウエロナール」ノ一、〇「プロセント」液半筒ヲ皮下ニ注射ス

全 四十分

四秒	右後肢
五秒	左後肢
—	左後肢
三秒	左後肢
四秒	左後肢
四秒	右後肢
四秒	右後肢
三秒	右後肢
三秒	右後肢

三秒	右後肢
三秒	右後肢
四秒	左後肢
四秒	右後肢
三秒	右後肢

右ノ實驗例ニヨレバ投藥前左後肢ノ反射運動ニ要スル時間ハ平均七、六秒ニシテ右後肢ハ七、七秒ナリ投藥後十五分間ヲ經過スレバ反射運動ニ要スル時間平均三、六秒ヲ要シ右後肢ハ五秒ヲ要ス三十分ヲ經過スレバ四秒ニ至リ右後肢ハ三、三秒トナル余ハ此ノ實驗ヲ數回行ヒ而シテ投藥セザルモノト比較對照試驗ヲモナシテ「ウエロナル」投藥後ハ每常同ジク反射機能興奮スルヲ見タリ即チ「ウエロナル」ハ反射機能ヲ興奮スル性アリ

第二節 溫血動物ニ對スル作用

(イ) 南京鼠ニ對スル一般作用

「ウエロナル」一、〇「プロセント」液ヲ造リ其一筒(プラワツ氏注射器)ヲ南京鼠ノ皮下ニ注射スルニ注射後凡ソ五分間ニシテ歩行ハ蹣跚ニナリ之ニ輕度ノ刺戟ヲ加フルトキハ直ニ飛躍ス即チ反射機能ノ興奮スルヲ見ル十分間ヲ

經過スレバ既ニ全ク麻痺狀トナリ凡ソ二時間半ヲ經過スルトキハ呼吸靜止シ心搏モ亦靜止ス即チ生活力ヲ失フ或ル場合ニテハ注射後四十分ニシテ死ニ陥ルコトヲモ實驗セリ今二三ノ實驗例ヲ掲グレバ次ノ如シ

實驗例 (其一)

南京鼠ノ躰重九、〇瓦

午前十一時四十分

「ウエロナール」如上ノ液一筒ヲ皮下ニ注射ス

全 四十五分

歩行蹣跚トナリ稍々不安ノ狀態ヲ示シ輕微ナル刺戟ヲ加フルトキハ飛躍ス

全 五十分

全ク麻痺狀態ニ陥リ靜穩ヲ保チテ他ニ變狀ナシ

午後二時〇五分

呼吸靜止、心搏モ亦靜止ス即チ生活力ヲ失フ

實驗例 (其二) 躰重十、〇瓦

午後三時十分

「ウエロナール」如上ノ液一筒ヲ皮下ニ注射ス安靜ナリ

全 十五分

歩行蹣跚トナリ或ハ起チ或ハ倒レ恰モ醉人ノ如シ而シテ稍々不安ノ狀態ヲ示シ且輕微ナル刺戟ヲ加フルトキハ飛躍ス

全 二十三分

側位ヲ取ラシムルニ既ニ常位ニ復スルノ勇ナク四肢共ニ震フ

全 二十五分

全ク麻痺狀態ニ陥リテ他ニ變狀ヲ現ハサズ

全 四 時

呼吸靜止、心搏モ亦靜止ス即チ全ク生活機ヲ失ス

(ロ) 家兔ニ對スル一般症狀

今「ウエロナール」ヲ「ゾンデー」ヲ以テ家兔ノ胃内ニ注入スルニ家兔ハ投藥後歩行ハ蹣跚トナリ時々頭部ヲ左右

ニ振動シ或ハ倒レ或ハ起テ遂ニ全ク麻痺狀トナル睡眠中ニハ輕度ノ眼球振子様運動及ビ咀嚼運動ヲナス而シテ約四十時間ニ亘ル睡眠ヲ持續シテ醒覺シ常態ニ復ス醒覺後食慾ヲ有シ敢テ異狀ヲ認メズ然レドモ亦死ノ轉歸ヲ取ルコトアリ二三ノ實驗例ヲ掲グレバ次ノ如シ

實驗例 (其一)

家兔ノ躰重二千五百七十瓦

午後一時十七分

「ウエロナール」一、〇瓦ヲ微温水ニ溶解シ「ゾンデー」ヲ以テ胃内ニ注入ス

全 四十五分

歩行ハ蹣跚トナリ或ハ倒レ或ハ起テ頭部ヲ左右ニ振動シ暫時ニシテ室ノ一隅ニ常位ヲ保チ時々躰ヲ兩側ニ搖動ス

全 二 時

側位ヲ取ラシムルニ既ニ常位ニ復スルヲ得ズ後肢ニ刺壓ヲ加フルトキハ強テ匍匐ス而シテ特ニ後肢ノ麻痺強度ナリ

全 十 分

全ク麻痺ノ状態ニ陥ル而シテ輕度ノ眼球振子様運動及ビ強キ咀嚼運動ヲ現ハス反射機能存在セリ

全 三十分

氣管水泡音ヲ放チテ睡眠ス眼球振子様運動存在、涙液ノ分泌多シ呼吸ハ淺平ナリ

全 四 時

眼球振子様運動及ビ咀嚼運動等ヲ認メズ呼吸淺平鼾聲ヲ放チテ睡眠シ他ニ變狀ヲ現ハサズ

翌 日

午 前 八 時

輕度ノ眼球振子様運動ヲ現ハシ睡眠ス反射機能現存セリ

全 十二時

氣管水泡音ヲ放チテ睡眠ス反射機能存在他ニ變狀ヲ現ハサズ

午後 三時

咀嚼運動ヲ現ハシ呼吸ハ淺平ナリ

翌々日

午前 八時半

醒覺シテ常態ト異ナルコトナシ食欲盛ナリ

實驗例 (其二)

家兔ノ躰重二千三百二十五瓦

午後二時五十五分

「ウエロナル」一、五瓦ヲ微温湯ニ溶解シ「ゾンデ！」ヲ以テ胃内ニ注入ス

全 三時十分

歩行蹣跚トナリ特ニ後肢ニ麻痺狀強クシテ或ハ倒レ或ハ起テ頭部ヲ左右ニ振動シ恰モ

醉者ノ如シ遂ニ室ノ一隅ニ辛フジテ常位ヲ保チナガラ躰ヲ兩側ニ搖動ス

全 二十五分

側位ヲ取ラシムルニ常位ニ復スルノ勇既ニ失ス而シテ後肢ニ指頭ヲ以テ強度ノ刺壓ヲ

加フルトキハ匍匐ス

全 三十分

全ク麻痺狀トナル而シテ稍々著シキ眼球振子樣運動及ビ咀嚼運動ヲ現ハス

全 四時

氣管水泡音ヲ放チテ睡眠ス反射機能現存、

翌日

午前 八時

輕度ノ眼球振子樣運動ヲナシ涙液ノ分泌多量ナリ反射機能現存、呼吸ハ淺平ナリ

全 十時

咀嚼運動ヲナス他ニ變狀ヲ現ハサズ

全 十二時

氣管水泡音ヲ放チテ睡眠ス反射機能現存、

午後 四時 呼吸ハ淺平ニシテ氣管水泡音ヲ放チ反射機能現存、
翌日

午前 八時 既ニ呼吸靜止、心搏モ亦靜止、今之ヲ剖檢スルニ腎臟ハ輕度ノ鬱血症狀ヲ現ハス而シ

テ他ノ臟器ニ變狀ヲ認メズ

(ハ) 血行器及ビ呼吸器ニ及ボス作用

此ノ作用ハ尤モ注意スベキモノニシテ又人ノ知ラント欲スル所ナリ而シテ之ガ試驗ヲナスニ當リテハ豫メ試驗ノ準備ヲナサザルベカラズ故ニ其ノ準備ノ方法ヲ述ブル亦杜撰ニアラザルヲ信ジ敢テ其ノ方法ヲ記スコト、セリ、之ガ動物試驗ヲナスニハルードウィヒ氏ノ血壓計 Ludwig'sche Kymographion. ヲ應用ス即チ一家兔ヲ取り之ガ躰重ヲ量リ之ヲ手術臺上ニ固定シ頸動脈ヲ露出シ以テ血壓ヲ檢ズルニ供シ氣管切開ハ呼吸ノ狀態ヲ檢センガタメナリ而シテ余ノ檢セントスル「ウエロナール」ハ前述ノ如ク冷水ニハ至テ僅カニ溶解性ヲ有スルモノナリ故ニ皮下注射、靜脈内注入等ハ大ニ不便ヲ感ズル所ナリ故ニ余ハ食道ヲ露出シ之ニ「ゾンデー」ヲ挿入投藥セリ乃チ食道ヲ露出シテ「ゾンデー」ヲ挿入シ然ル後チ頸動脈ハ「カニユウレー」ノ媒介ニヨリテ「マノメーター」ニ氣管「カニユウレー」ハマレー氏ノ「タンブール」Marey'sche Tambour. ニ連續シ始メ暫時間ハ平常ノ狀態ヲ檢シ然ル後チ「ウエロナール」○、五瓦乃至一、五瓦ヲ食道ヨリ胃内ニ注入シ以テ兩器ニ及ボス作用ヲ試驗セリ但シ「ウエロナール」ハ每常微溫水ニ溶解シテ用ユ

余ノ實驗ニヨレバ投藥前後ニ於テ脈波ニ著シキ變化ナクシテ脈搏數ヲ算スルニ投藥前ハ十秒時ニ四十一搏ノモノ投藥後三十二搏ニ減少ス血壓ノ關係ヲ檢ズルニ投藥後著シキ變化ナシ時々トシテハ通常血壓ヨリ稍々上昇スルコトヲ

モ實驗セリ呼吸ハ投藥後稍々淺平トナル、
 今「ウエロナール」ノ兩器ニ及ボス作用ハ右ノ如シ然ルニ兩器ニ對シ何レヲ強ク犯スヤノ疑問ナキ能ハズ實驗ニヨ
 レバ脈搏尙ホ存在スル内ニ呼吸ハ己ニ靜止スルヲ見ル此ヲ以テ之ヲ見レバ「ウエロナール」ハ呼吸器ヲ犯スコト血
 行器ヲ犯スヨリ其力強キヲ知ルニ足ル今之等動物實驗例ヲ掲グレバ次ノ如シ

實驗例 (其一) 血壓並ビニ呼吸試驗

家兔ノ躰重二千六百三十瓦手術前ノ如シ

時分	脈搏(十秒)	血壓(密迷水銀柱)	呼吸數(十秒)	備考
午後一時四分	四一	一四〇	二三	
全 十 分	一	一〇四	一三	ウエロナール一、五瓦ヲ微温水ニ溶解シ胃 内ニ注入ス
全 十五分	四四	九〇	二三	
全 二十三分	四八	七四	一二	
全 三十分	三六	七八	六	
全 二 時	三六	七〇	六	
全 十五分	三七	六九	六	
全 五十分	三七	六六	五	
全三時二十五分	三六	五六	五	
全 四 時	三五			

全	五分	三二	五〇	四	試驗中止
全	三十五分	三二	五〇	四	試驗中止

實驗例 (其二)

家兎ノ牀重二千二百九十四瓦手術前述ノ如シ

時 分

脈搏(時十秒)

血壓(密送水銀柱)

呼吸數(時十秒)

備

考

午後一時卅二分	四三	八九	七	「ウエロナル」一、〇瓦ヲ胃内注入
全 三十五分	—	—	—	
全 三十六分	四六	九三	九	
全 四十分	四四	八三	—	
全 二時十五分	四五	七九	—	
全 二十分	四四	八九	八	
全 四十分	四六	九一	—	
全 五十五分	五五	八三	六	
全 三時十三分	四三	九三	—	
全 三十五分	四〇	八九	—	
全 五十分	四〇	八七	—	
全 四時	三九	九三	—	試驗中止

(二) 泌尿器ニ對スル作用

今特ニ項ヲ改メテ泌尿器ニ對スル作用ヲ述ベントスルハ他ナシドクトル、ハー、クライスト氏ハ報シテ曰ク「ウエロナル」ノ中毒ニ際シテハ尿中ニ蛋白質ヲ檢出スト果シテ然ル乎余ハ今「ウエロナル」一、五瓦ヲ温水ニ溶解シ躰重二千六百瓦ノ家兎ニ「ゾンデー」ヲ以テ胃内ニ注入スルニ投藥後二時三十分ニシテ死ニ陥ル依テ之ヲ剖檢スルニ凡テノ内臟ニ異狀ヲ認メズ而シテ躰内ノ尿ヲ取り其ノ少許ヲ試験管ニ取りテ之ニ注意シテ硝酸ヲ注加シ以テ二液層トナスニ其接觸面ニ於テ白輪ヲ生ズルコトナシ而シテ之ヲ煮沸スルトキハ透明ニ溶解ス即チ蛋白ノ痕跡ヲ認識セズ又躰重二千九十二瓦ノ家兎ニ「ウエロナル」〇、五瓦宛胃内注入ヲ繼續スルコト十日間ニ及ベリ而シテ其ノ間排泄尿中ニ於ケル蛋白ノ有無ヲ同上ノ方法ニ從ヒ之ヲ檢スルニ常ニ其ノ痕跡ヲモ鑑識セズ今此ノ家兎ヲ嘔羅仿謨ヲ以テ死ニ至ラシメ死後直ニ剖檢スルニ腎臟ノ皮質ハ灰白黃色ヲ呈シ常態ノモノニアラザルヲ見ル而シテ他ノ臟器ニハ何等ノ認ムベキ變化ナシ而シテ余ハ此ノ實驗ヲ行フコト數回ナリシガ前述ノ腎臟ニ於ケル變化ハ每常之ヲ認ム今コノ腎臟切片ヲ造リ鏡檢スルニ或時ハ稍々高度ノ脂肪變性ヲ呈シ毛細血管及ビ靜脈ハ多少血液ヲ以テ充サルマルピキー氏小体ニ於テハ著變ナシ或ル場合ハ前者ニ供フ變化ヲ現ハスモ充血ノ度ハ稍々弱シ或ル場合ハ脂肪變性ヲ呈セザルニアラザレドモ寧ロ細胞(細尿管上皮細胞)ノ溷濁著シク鬱血モ亦稍々高度ナリ又或ル場合ニハ之ニ供フ外稍々血量ニ富ムヲ見ル故ニ「ウエロナル」ハ之ヲ持續シテ用ユルトキハ腎臟ヲ刺戟スル性アルヲ思ハシム然レドモ余ハ未ダソノ確証ヲ得ズ即チ他日ヲ期シテ報告スルコト、セリ

第二章 「イゾプラール」

「イゾプラール」ハ西曆千九百〇三年フリードリッヒ、バイエル會社ニ於テ製出セラレ千九百〇四年ドクトル、アル

ツール、ムートマン氏ニヨリテ世ニ公ニセラレタル新催眠藥ニシテ催眠ノ効ヲ奏スルモノナリ之ヲ化學的ニ云ヘバ「トリクロール、イソプロピール、アルコホール」ニシテ次ノ化學記號ヲナス



即チ「トリクロール、アセト、アルデヒード」一名「クロラール」ニ「マグネシウム、沃化メチール」ヲ結合セシメ爾後稀酸類ヲ以テ分解シテ製出セラレタルモノナリ「イソプラーイル」ハ極メテ細微ナル三稜硝子形ノ結晶性物質ニシテ芳香性樟腦類似ノ香氣ヲ有ス之ヲ氣中ニ放置スルトキハ徐々ニ氣散ス攝氏十九度ノ水ニハ三、三「プロセント」ノ割合ニテ溶解ス其味ハ微ニ苦味ヲ有ス實質ノ少許ヲ舌上ニ置クトキハ熾クガ如キ感ヲ與フ然レドモ只ダ暫時ナリ之レ即チ局所麻痺ノ作用アルガタメナリ而シテ「イソプラーイル」ハ多少ノ腐蝕性ヲモ有ス本品ノ局所麻痺作用アルヲ實地ニ應用セザルハ効驗ノ短時間ナルト腐蝕性ヲ有スルガタメナリ

「イソプラーイル」ニ關シドクトル、ムートマン氏ヨリ報告セラレタルインペンズ氏ノ事蹟ヲ見ルニ「イソプラーイル」ハ大脳尙ホ進ンデ脊髓ヲ麻痺ス心臟ニ對シテハ少量ヲ與フルトキハ無力ナリ○、○四五「プロセント」溶液ニテ蛙ノ心臟ハ其機能力ヲ有シ之ニ反シテ抱水「クロラール」ハ同調度ノ液ニテ如上ノ心臟ハ擴張期ニ靜止ス然レドモ「イソプラーイル」一、○「プロセント」液ハ心臟ヲシテ速ニ擴張期ニ靜止セシム之ニ器械的刺戟ヲナストキハ再ビ機能ヲナス血壓ハ一般ニ低下ス即チ血管ハ擴張ス呼吸ノ關係ハ異狀ナシ即チ生理的睡眠時ト異ナルコトナシ然レドモ其ノ中毒量ヲ與フルトキハ呼吸麻痺ス而シテ此ノ呼吸ノ麻痺現象ハ心臟麻痺ヨリ早クシテ之ニ由テ起ル死ハ即チ窒息ノ状態ニ陥リテ死ヲ招ク尿ノ排泄量ハ「イソプラーイル」ニ由テ増加ス吸収機能ハ甚ダ迅速ニシテ服用後三乃至五分間ニシテ効ヲ奏ス又「イソプラーイル」ノ効果ハ之ヲ含有スル空氣ヲ吸入スルモ同シク効ヲ奏スルモノナリ「イソプラーイル」

ハ其服用セシ量ノ三分ノ二ハ尿ト共ニ「グリクロン」酸ト混和シテ排泄セラル殘餘ノ三分ノ一ハ臍内ニテ分解ス

第一節 冷血動物就中蛙ニ對スル作用

(イ) 一般作用

今「イゾプラーレル」ノ三、〇「プロセント」水溶液ヲ造リ其一筒ヲ(プラワツ氏注射器)中等大蛙ノ皮下ニ注射スルニ注射後二乃至四分間ニシテ漸次腹部ヲ地上ニ付ケ口ヲ開キ時トシテ胃ノ内容ヲ吐出ス(但シ嘔吐症狀ハ特ニ致死量ノ三分ノ二乃至二分ノ一ヲ注射シタル後ニ於テ殆んど常ニ見ル所ナリ)二十分ニシテ全ク麻痺狀トナリ凡ソ五十分ニシテ死ニ陥ル依テ剖檢スルニ心臟ハ擴張期ニ靜止ス致死量ハ一、〇基瓦ニ對シテ一、〇瓦ナリ今之ニ對スル一二ノ實驗例ヲ掲グレバ次ノ如シ

實驗例 (其一)

蛙ノ躰重二十九瓦

午後 一時 「イゾプラーレル」ノ三、〇「プロセント」溶液一筒ヲ皮下ニ注射ス

全 二 分 安靜ニシテ口ヲ開キ暫時ニシテ胃ノ内容物ヲ吐出ス

全 四 分 前肢ヲ稍々兩側ニ廣ゲ漸次腹部ヲ地上ヲ付ク

全 十三分 全ク麻痺狀態トナル後肢ヲ指頭ヲ以テ刺壓スルニ反射運動存在ス

全 三十分 後肢部ニ刺壓ヲ加フルニ輕度ノ反射運動ヲナス

全 四十六分 呼吸靜止、心臟ヲ露出スルニ同ジク擴張期ニ於テ靜止スルヲ見ル坐骨神經ヲ露出シテ

電氣ニテ刺戟スレバ興奮性ヲ有ス

實驗例 (其二)

蛙ノ躰重二十八瓦

午前十時 「イゾプラール」如上ノ液一筒ヲ蛙ノ皮下ニ注射ス

全三分 極メテ靜穩ニシテ口ヲ開キ前肢ヲ稍々兩側ニ廣ゲテ胃ノ内容物質ヲ吐出シ暫時ニシテ

腹部ヲ地上ニ付ク

全五分 側位ヲ取ラシムルニ既ニ常位ニ復スルノ勇ヲ失ス

全七分 全ク麻痺狀態トナリ他ニ變狀ヲ認メズ今其後肢ニ指頭ヲ以テ刺壓ヲ加フルニ直ニ反射

運動ヲナス

全四十分 呼吸靜止、心臟ヲ露出スルニ同ジク擴張期ニ於テ靜止スルヲ見ル坐骨神經露出シテ電

氣刺戟ヲ加フルトキハ興奮ス

(ロ) 心臟ニ對スル作用

今中等大蛙ノ心臟ヲ露出シテ其ノ心搏數ヲ檢シ而シテ後「イゾプラール」ノ三、〇「プロセント」液一筒ヲ(アラワツツ氏注射器)皮下ニ注射スルニ注射後漸次心搏數ヲ減少シテ三十分間ヲ經過スレバ投藥前ノ凡ソ二分ノ一ヲ減却スルニ至ル而シテ大抵五十分乃至一時間ニシテ心臟ハ擴張期ニ靜止ス今之ニ器械的ノ刺戟ヲナストキハ再ビ搏動シ得ルモ「アトロピン」ハ每常無効ナルヲ見ル故ニ「イゾプラール」ニ因テ起ル心臟ノ擴張期靜止ハ心臟筋ノ麻痺ニアラズ又迷走神經末端ノ興奮スルニアラズ顧フニ心臟自動中樞ノ麻痺ニ因スルモノナラン今之ニ對スル二三ノ實驗例ヲ掲グレバ左ノ如シ

實驗例 (其一)

時分	心搏數(一分間)	備考
午前九時四十五分	五〇	
全 四十六分	一	イヅプラール三、〇「プロセント」液一筒ヲ皮下ニ注射ス
全 五十分	二八	
全 十時	二六	
全 五十分	二八	
全 十分	二六	
全 十五分	二四	
全 二十分	二四	
全 二十五分	一九	
全 三十分	一九	
全 四十分	一五	
全 五十分	一〇	
全 十一時	一	

心臟ハ擴張期ニ靜止、今之ニ器械的刺戟ヲナストキハ搏動ス而シテ「アトロピン」ニハ變化ナシ

實驗例 (其二)

時分	心搏數(一分時)	備考
午前十時十五分	四六	
全 二十分	—	「イゾプラール」如上ノ液一筒ヲ皮下ニ注射ス
全 二十五分	三二	
全 三十分	二六	
全 三十五分	二六	
全 四十五分	二四	
全 五十五分	二〇	
全 十一時十分	二〇	
全 二十五分	一〇	
全 三十五分	—	

心臟ハ擴張期ニ靜止ス今之ニ器械的ノ刺戟ヲナストキハ搏動ヲナス而シテ「アトロピン」ニ由テハ何等ノ變化ナシ

第二節 温血動物ニ對スル作用

(イ) 南京鼠ニ對スル一般症狀

今中等大南京鼠ノ皮下ニ「イゾプラール」三、〇「プロセント」液一筒(ブラワツツ氏注射器)ヲ皮下ニ注射スルニ二乃至三分間ニシテ步行蹣跚トナリ凡ソ五分間ニシテ側位ヲ取ラシムルモ常位ニ復スルノ勇ヲ失ヒテ全ク麻痺狀トナル而シテ投藥後大抵四十分ニシテ呼吸靜止、心搏モ亦靜止即チ全ク生活力ヲ失フ臨終痙攣ナシ致死量ハ躰重一、〇

基瓦ニ對シテ〇、七瓦ナリ今之ニ對スル一二ノ實驗例ヲ掲グレバ次ノ如シ

實驗例 (其一)

南京鼠ノ躰重九、〇瓦

午前 九時 「イゾプラール」ノ三、〇「プロセント」液半筒ヲ皮下ニ注射ス

全 三 分 歩行蹣跚トナリ或ハ倒レ或ハ起テ其ノ狀態恰モ醉人ノ如シ

全 五 分 側位ヨリ常位ニ復スルノ勇既ニ失シ全ク麻痺狀トナル而シテ他ニ變狀ヲ認メズ

全 四十 分 呼吸靜止、心搏モ亦靜止ス即チ全ク死セリ

實驗例 (其二)

南京鼠ノ躰重十六瓦

午後 一時 「イゾプラール」如上ノ液一筒ヲ皮下ニ注射ス

全 四 分 歩行蹣跚トナリ躰ヲ兩側搖動ス

全 六 分 全ク歩行障害ヲ來タシ側位ヨリ常位ニ復スルノ勇ナシ

全 三十八 分 呼吸並ビニ心搏共ニ靜止即チ全ク死セリ

(ロ) 家兔ニ對スル一般作用

今「イゾプラール」ヲ「ゾンデー」ヲ以テ家兔ノ胃内ニ注入スルニ投藥後歩行蹣跚トナリ時々頭部ヲ左右ニ搖動シ殊ニ後肢ニ強度ノ麻痺ヲ來タシ或ハ倒レ或ハ起テ即チ躰ヲ兩側ニ搖動シ遂ニ全ク麻痺狀態トナル其睡眠中ニアルヤ屢々眼球ノ振子樣運動ヲ著シク現ハス躰溫ハ投藥前ニ比スレバ稍々下降スルヲ見ル今一二ノ實驗例ヲ掲グレバ次ノ如シ

實驗例 (其一)

家兔ノ躰重二千三百四十瓦

午前 十時 「イゾブラル」一、〇瓦ヲ微温水ニ溶解シテ胃内ニ注入ス

全 五 分 歩行障害ヲ來タシ殊ニ後肢ニ強度ノ麻痺ヲ來タシ或ハ倒レ或ハ起テ即チ躰ヲ兩側ニ搖

動シテ其狀態サナガラ醉人ノ歩行スルガ如シ

全 二十分 家兔ニ異常ノ位置ヲ取ラシムルニ既ニ常位ニ復スルノ勇ナク即チ睡眠ス呼吸ハ安靜ニ

シテ淺平ナラズ

全 四十分 後肢ニ刺壓ヲ加フルニ反射機能存在ス而シテ著シキ眼球ノ振子様運動ヲナス

全 十一時五十分 頭部ヲ上ゲ暫時不穩ノ狀態トナリテ少シク匍匐ヲ試ミ再ビ睡眠ニ陥ル

全 十一時 全ク醒覺シ常態ト異ナルコトナシ醒覺後食慾完全ナリ

實驗例 (其二)

家兔ノ躰重二千五百二十五瓦

午後 一時 「イゾブラル」三、〇瓦ヲ前同様ノ方法ヲ以テ胃内注入ヲ施ス注入後極メテ安靜ニシ

テ室ノ一隅ニ常位ヲ保ツ

全 四 分 歩行蹣跚トナリ殊ニ後肢ノ麻痺著シク或ハ倒レテ或ハ起テ常位ヲ保ツニ難ヤトシテ躰

ヲ兩側ニ搖動ス而シテ暫時ニシテ腹部地上ニ附ケ前肢方ニ延バス

全 十三分 側位ヲ取ラシムルニ既ニ常位ニ復スルノ氣力ナク靜カニ睡眠ニ陥ル

全 三十分

全ク麻痺状態トナリ呼吸ハ安靜ナリ後肢ヲ刺壓スルニ反射運動ヲナス

全 二時十分

後肢ニ稍々強度ノ刺壓ヲ加フルニ只ダ輕度ノ反射運動ヲナス

全 三十分

呼吸靜止、心搏モ亦同ジク靜止セリ即チ全ク生活機能ヲ失ス死後直ニ剖檢スルニ腎臟ハ稍々鬱血状態ヲ現ハス而シテ他ノ臟器ニ異狀ヲ認メズ

(ハ) 血行器並ビニ呼吸器ニ及ボス作用

此ノ兩器ニ及ボス作用ハ常ニ最モ注意スベキモノニシテ之ガ試驗ヲナスニハ豫メ準備セザルベカラズ而シテ之等ハ前章ニ於テ既ニ述ベタル所ナリ依テ反復今茲ニ贅言セザルコト、セリ「イゾプラール」ハ「ウエロナール」ニ比スレバ稍々溶解性ヲ有スト雖ドモ皮下注射靜脈内注入等ハ大ニ不便ナルヲ以テ同ジク食道ヲ露出シ以テ胃内注入トセリ而シテ始メ暫時間ハ平時ノ常態ヲ檢シ然ル後「イゾプラール」一、〇瓦乃至一、五瓦ヲ食道ヨリ胃内ニ注入シ以テ兩器ニ及ボス作用ヲ試驗セリ余ノ實驗ニヨレバ投藥前後脈搏數及ビ呼吸數ニハ著シキ變化ヲ現ハサズ然ルニ血壓ニ於テハ殆ンド二分ノ一以上ノ下降ヲ檢セリ而シテ「イゾプラール」ハ余ノ實驗ニヨレバ脈搏尙存在スルニ呼吸ハ已ニ靜止ス此ヲ以テ之ヲ見レバ「イゾプラール」ハ呼吸器ヲ犯スコト血行器ヲ犯スヨリ其力強キヲ知ル今之等ノ實驗例ヲ掲グレバ次ノ如シ

實驗例 (其一)

家兔ノ躰重二千五百七十五瓦手術前ノ如シ

時 分

脈搏(十秒時)

血壓(密迷水銀柱)

呼吸數(一分時)

備

考

午後一時二十五分

三八

一三六

四二

全	三十四分	三九	一三六	五四
全	三十五分	一	一	一
全	三十七分	五一	八六	五四
全	四十分	四八	六四	四八
全	五十分	四六	五二	
全	二時〇五分	四四	四〇	四二
全	三十六分	三六	二六	二四
全	四十分	三八	三〇	
全	四十三分	一四	二四	
全	四十四分	一二	一二	
全	五十分			

實驗例 (其二)

家兎ノ躰重二千三百四十五瓦手術前ノ如シ

時分 脈搏(時^{十秒}) 血壓(密送水銀柱) 呼吸數(時^{一分})

備考

午後二時〇八分	三九	一二二	四八
全 十 分	一	一	一
全 十二分	四〇	一〇四	四八

「イゾプラール」〇、五瓦ヲ胃内注入

「イゾプラール」一、五瓦ヲ五〇、〇立方
「センチメートル」ノ水ニ溶解シテ胃内ニ
注入ス

呼吸靜止

脈搏靜止

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
四十五分	四十分	三十七分	三十六分	三十分	二十五分	二十一分	十六分	十分	三時	五十分	四十分	三十三分	三十分	二十分	十七分	十四分	十四分
四二	三九	四〇	四一	四〇	四一	三八	三九	四三	三九	三九	三九	三九	三六	三七	三八	四〇	四〇
七〇	七六	五六	七〇	六二	七〇	四八	五八	四六	四六	五八	六六	七六	五〇	七〇	六四	七八	七八
	四二			三六	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四八	四八	四二	四二	四二

全	四十六分	四〇	五八
全	五十分	三七	七四
全	五十二分	三八	七八
全	五十三分	三八	六二
全	四時	一	一

第三章 結 論

試驗中止

以上掲ゲタル動物試験ニヨリ余ハ次ノ断定ヲ下サント欲ス

第一、「ウエロナール」ハ微ニ苦味ヲ有ススルガ故ニ人ニヨリテ或ハ嫌嗜アランモ矯味藥ヲ用ユルノ要ハナカル
ベシ

第二、「ウエロナール」ヲ家兔ニ内服セシメタル後眠リヲ催ホスハ二十分乃至四十分ナリ

第三、「ウエロナール」ノ催眠量ハ家兔一、〇基瓦ニ對シ凡ソ〇、一六瓦ナリ

第四、「ウエロナール」ノ致死量ハ家兔ノ躰重一、〇基瓦ニ對シテ凡ソ一、〇瓦ナリ

第五、「ウエロナール」ハ少量ニテハ反射興奮性稍々増加ス腎臟ニ對シテ刺戟性ヲ有スルモノ、如シ

第六、「ウエロナール」ハ投藥後躰温ヲ著シク下降スルモノニアラズ夫レ躰温ハ生理的ニモ睡眠中ハ幾分カ其下

降ヲ見ルモノニシテ殊ニ麻痺藥ヲ投與セシ時ハ温ヲ調節スル中樞麻痺スル結果温ノ調節不調トナリ躰温

ノ下降ヲ見ル亦理ノ當然ナリトス

第七、「ウエロナール」ハ呼吸器及ビ血行器ヲ著シク犯ササルモノナリ

第八、「イゾプラール」ノ味並ニ臭氣ハ人ニヨリ或ハ嫌嗜アランモ敢テ矯味藥ヲ用ユルノ要ハナカルベシ

第九、「イゾプラール」ヲ家兔ニ内服セシメ後眠リヲ催ホスニハ凡ソ十分間ヲ要ス之レ元ヨリ躰重ニ關シ躰重ニ千二百四十瓦ノ家兔ニ一、〇瓦ヲ投藥シタル後五分間ニシテ睡眠ニ陥ル

第十、「イゾプラール」ノ催眠量ハ家兔ノ躰重一、〇基瓦ニ對シ凡ソ〇、二瓦ナリ

第十一、「イゾプラール」ノ致死量ハ家兔ノ躰重一、〇基瓦ニ對シテ凡ソ一、二瓦ナリ

第十二、「ウエロナール」ヲ以テ「ズルフオナール」ニ比スレバ其催眠力ハ遙カニ強ク且ツ投藥後眠リヲ催ホス時間モ亦迅速ナリ然レドモ「ウエロナール」ハ腎臟ニ對シ刺戟作用ヲ呈スルノ危險アルガ如シ而シテ「ズルフオナール」ハ既ニ吾人ガ知レル如ク中毒性ノ腎臟炎ニ因スル血尿ヲ洩ラス故ニコノ兩催眠藥ハ腎臟炎ヲ有スル患者ニハ特ニ禁忌スベキヲ適當ナリト信ズ

第十三、「ウエロナール」ヲ以テ「ヘドナール」ニ比スレバ其催眠力ハ遙カニ強シ即チ余ハ茲ニ動物試驗ヲ掲ケザルモ一、〇瓦ノ「ウエロナール」ハ約四十時間ニ亘ル睡眠ヲナスト雖ドモ一、〇瓦ノ「ヘドナール」ハ約十七時間ノ睡眠ヲ持續ス然ルニ「ウエロナール」ハ反射機能ヲ興奮シ及ビ腎臟ニ對シ刺戟性ヲ有スルモノ、如シ而シテ「ヘドナール」ハ斯ル恐レナシ故ニ「ウエロナール」ハ「ヘドナール」ヲ凌駕スル良催眠藥ニアラズ

第十四、「イゾプラール」ヲ以テ抱水格魯刺爾ニ比スレバ其催眠力遙カニ強ク且ツ投藥後眠リヲ催ホス時間モ亦迅速ナリ然レドモ睡眠中眼球ノ振子樣運動ヲ著シク現ハシ而シテ血壓下降ノ如キ抱水格魯刺爾ト殆ンド類似ス依テ「イゾプラール」ハ彼ヲ凌駕スルモノニアラズ

第十五、「イゾブラル」ヲ以テ「ズルフオナル」ニ比スレバ其催眠力ハ強カラズト雖ドモ奏効迅速ナリ然レ

ドモ「イゾブラル」ハ常ニ血壓ヲ下降セシムル缺點ヲ有シ「ズルフオナル」モ亦彼ノ中毒性ノ腎臟

炎ニ因スル血尿ヲ漏ラス危險アリ即チ兩者共ニ良催眠藥トシテ之ヲ賞用スルニ足ラザルモノトス
 之ヲ要スルニ「イゾブラル」ハ心臟ニ對シ可厭麻痺作用ヲ逞クシ「ウエロナール」ハ腎臟ヲ刺戟シテ腎臟炎ヲ
 起ス危險ヲ有スルモノ、如シ故ニ余ハ斷言ス「イゾブラル」及ビ「ウエロナール」ノ二新藥ハ從來用ヒ來リシ
 催眠藥ヲ凌駕スベキ良催眠藥ニアラザルコトヲ

余ハ今擱筆スルニ際シ左ニ歐洲醫家ノ實地經驗ヲ摘録シ以テ讀者ノ參考ニ供セントス

ドクトル、シーゲル氏曰ク余ハ「エナ」大學精神病教室ニ於テ催眠藥トシテ「ウエロナール」ヲ用ヒタリ而シテ投
 藥ノ翌日頭痛、睡眠過多、嘔吐、等ノ副作用ヲ觀察セリ「ウエロナール」ヲ用ユルハ普通〇、五瓦乃至一、〇瓦ヲ温キ
 牛乳、茶或ハ「オブラート」ニ包ミテ用ユルヲ可トス投藥後三十分乃至一時間ニシテ効ヲ奏ス

グレラケ―氏曰ク患者ハ十九歳ノ女子ニシテ一、七五瓦ノ「ウエロナール」ヲ服用セシメタルガ猩紅熱類似ノ發疹
 ヲ現ハセリ故ニ其作用ヲ確定センガタメ數回之ヲ用ヒシニ毎常同上ノ狀態ヲ示ス

メーリング氏曰ク「ウエロナール」ヲ用ユルニハ其ノ溶解劑トシテハ茶ヲ以テ利益トスルノミナラズ苦味ヲ輕減ス
 而シテ「オブラート」ニ包ミテ投與スルトキハ効ヲ奏スルニ時々トシテ數時間ヲ要スルコトアリ

ヨード、ウイッヒ氏曰ク「ウエロナール」ヲ投與スルトキハ副作用トシテ頭痛又ハ呼吸困難等ヲ現ハス而シテ斯ル
 不利益ナル点ハ微量ノ莫爾比涅ヲ添加シテ之ヲ調停スルヲ得ルモノトス

ラボウグレ氏曰ク「ウエロナール」ハ催眠藥トシテ單純ナル不眠症及ビ鎮痛劑トシテ興奮ノ狀態ノモノニ効ヲ奏シ

疼痛ニ因スル不眠症ニハ効果ヲナサズ而シテ血行器ニ對シテハ作用ヲナサズ又消化器ニ於テモ障害ヲ及ボスコトナシ大量ヲ投藥スルトキハ呼吸困難ヲ來ス躰温ニ對シテハ其作用極メテ僅ニ微ナリ之ニ反シテ其他ノ動物ニ於テハ躰温ノ下降著明ナリ或ル場合ニハ投藥後發疹眩暈或ハ頭痛ヲ惹起スルコトアリ

ムートマン氏曰ク余ハ老人ニシテ八年來重キ不眠症ニ供フテ衰弱的ニ興奮性ヲ有スルモノニシテ種々ノ催眠藥ヲ投與スルモ何レモ效果ヲ來タサズ今「イゾプラール」ノ一、〇瓦ヲ投與スルニ快捷ナル效果ヲ來タス而シテ常ニ翌朝ニ至リ現則的ニ頭痛ヲ惹起セリ又輕度ノ狂氣ニシテ妄想強度ナル患者ニ對シ抱水格魯刺爾二、〇瓦ヲ投與スルニ辛フジテ只ダ僅カノ催眠ヲナシタリ然ルニ「イゾプラール」一、五瓦ヲ投與スルトキハ完全ナル睡眠ニ陥ルコト迅速ナリ又強度ノ妄想興奮ノ状態ニアル患者ニ「バラアルデヒド」ノ六、〇瓦ヲ投與スルモ常ニ満足ナル睡眠ヲ遂ゲズ然ルニ「イゾプラール」ノ一、〇瓦ヲ與フルニ完全ナル睡眠ヲ來ス又七十二歳ノ老人ニシテ衰弱ニ供フ不眠症ヲ有スル患者ニ抱水格魯刺爾一、〇瓦又ハ「トリオナル」五、〇瓦又ハ「バラアルデヒド」四、〇瓦乃至五、〇瓦ヲ阿片〇、一五瓦ト共ニ投與スルモ常ニ效果ヲ來サズ然ルニ「イゾプラール」ノ一、〇瓦ヲ投與スルニ效果ヲ來タシテ安全ナル睡眠ヲナス而シテ結論シテ曰ク

- 一、「イゾプラール」ハ吸收迅速ニシテ之ニ由テ起ル睡眠ハ不快ナル前兆ナク生理的睡眠ニ異ナルコトナシ
- 二、「イゾプラール」ハ脉搏ヲ減少セシム
- 三、「イゾプラール」ハ心臟ノ疾患アル人ニハ禁忌スベキモノナリ
- 四、「イゾプラール」ニ由テ起ル睡眠ハ其ノ醒覺後副作用ナク而シテ食慾ニ變化ナク嘔吐等決シテ起スコトナシ
- 五、輕度ノ不眠症ニハ〇、五瓦乃至〇、七五瓦ノ「イゾプラール」ヲ投與シテ適當ナル効ヲ奏ス

六、「インプラーノ」通常量ハ一〇瓦ナリ而シテ健康ナル心臓ヲ有スル人ニハ一回三、〇瓦マデ投與スルヲ得

引用書目

- I. Labouley; Zentralblatt für die gesammte Therapie okt. 1906 10 Hef.
- II. Arends; Neuarzneimittel und Spezialitäten.
- III. Schmidt u. Beckurts; Archiv der Pharmacie 1904.
- IV. Siegel; Münchener med. Wochenschrift No 3 1904.
- V. Charke; Münchener med. Wochenschrift No 12 1904.
- VI. Fischer u. Mering; münchener med. Wochenschrift No 15 1904.
- VII. Zodwig; Münchener med. Wochenschrift No 23 1904.
- VIII. Schiffer; Münchener med. Wochenschrift No 26 1904.
- IX. Husen; Münchener med. Wochenschrift No 29 1904.
- X. Davis; Münchener med. Wochenschrift No 32 1904.
- XI. Fränkel; Arzneimittelsynthese.
- XII. Senator; Münchener med. Wochenschrift No 33 1904.
- XIII. Muttmann; Münchener med. Wochenschrift No 32. 1904.
- XIV. 東京醫學會雜誌 第十六卷第一號

終リニ臨ミ恩師林博士ハ此ノ稿ノ校閲ノ勞ヲ取ラレ久保講師ノ周到ナル注意ト懇篤ナル指導併テ病理學教室醫學士石田助手ハ腎臟ノ顯微鏡的検査ニ際シ懇切ナル幫助ヲ與ヘラレシヲ深謝ス